

2008年9月4日
ブラジル日本商工会議所
日系社会関係委員長 窪田敏朗

百周年実行委員会
委員長 松尾 治 殿

6月21日の日伯交流年—ブラジル日本移民100周年記念式典が無事終了した事を踏まえ、一部の日系マスコミ（邦字紙）及び日系コロニア関係者から会議所会員、ブラジル進出日本企業による寄付協力が少ないとの総括的なコメントがあった。

会議所は予め6月開催のクライマックス行事に先がけ寄付協力の実態調査を行い、協力企業名は事前承諾の上、当所ホームページにも掲載し、調査の結果は邦字紙にもリリースした。数値が示すアンケートの結果は、下記プレスリリース明細にある通り、予想を上回る協力額に達し、立派に社会的責任を果たしている事も判った。

しかしながら、未だに日系コロニア関係者の一部には、依然として会議所の協力が低かったとの先入観的イメージと誤解が残っているように思われる。

今回ポルトガル語に翻訳、後世における誤った事実の伝承を避けるため、本文書を本日の会議の議事録に掲載される様要請する。

—記—

サンパウロ新聞に7月11日プレスリリース
<2008年7月11日定例昼食会 連絡事項>

日系社会委員長の窪田です。

6月5日付で移民百周年関連事業に関する寄付協力の実態調査を会員企業の皆様にお願ひしておりました。アンケートの結果を集計致しましたので、この場をお借りいたしましてご報告申し上げます。

今回アンケートにお答えいただいた会員企業のうち、のべ38社が既に寄付を実行したか、年末までに寄付を予定しているか、或いは会員企業独自のプロジェクトを実行したと回答いただきました。アンケートに参加いただいた会員企業のうち数社が、寄付金額の回答を希望されておられませんが、お答えいただけた寄付金額を合計致しますと、

1 先ず、既に寄付を実行したと今回のアンケートでお答えいただいた企業が25社で、総額610,565レアル。1社平均24,422レアルです。

2 年末までに寄付を予定している企業が9社の558,500レアルで、1社平均62,055レアル。

3 また会員企業独自の百周年プロジェクトを実行された企業が4社で345,000リアルで、1社平均86,250リアルとなっております。

したがって、今申し上げた3つのカテゴリを全て合計しますと寄付総額は151万4千リアル (= 約89万USドル) となります。

1995年の日伯修好百周年のときは、会議所が音頭をとって、奉賀帳方式で会員企業に協賛募金を募りましたが、その時は約140社で約26万USドルという実績でした。

今回の百周年につきましては、会員企業の皆様のご意見を反映し、寄付協力は会員企業の個社の判断に委ねるという方針を貫いて参りました。先日一部メディアの百周年総括記事の中に、今回は1995年日伯修好百周年対比、日系企業からの援助が少なかったという報道が数字的な根拠無く出ておりましたが、金額面では、今申し上げました通り、アンケートにお答えいただいた企業を集計しただけでも、今回は1995年の日伯修好百周年対比、3倍以上の89万USドルの寄付、協力が行なわれるという結果が出てまいりました。個々の会員企業のご判断でお願い致しましても、トータルでは1995年対比3倍以上もの寄付・協力が行われる訳でして、この一部メディアの指摘はあたらないということをご正し情報として皆様にご連絡申し上げます次第です。

尚このアンケートは12月に最終調査をおこなわせていただき、商工会議所として正しい実態把握に努める所存です。

皇太子にご出席いただいた今回の百周年式典をあらたな契機に、ブラジル日本両国は様々な分野で両国の絆を確かものにしていこうとしております。日系コロニア社会との接点につきましては、難しい面もございますが、日系社会委員会では引き続きコロニア社会との相互理解につとめて参りますので、皆様のご理解とご協力を宜しくお願い致します。有難うございました。

以上